

令和 8 年 8 月 4 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
東川町立東川小学校（外 4 校）	東川町教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
東川町立東川小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461
東川町立東川第一小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461
東川町立東川第二小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461
東川町立東川第三小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461
東川町立東川中学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
東川町立東川小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461	
東川町立東川第一小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461	
東川町立東川第二小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461	
東川町立東川第三小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461	
東川町立東川中学校	https://higashikawa-town.jp/portal/top/information/1461	

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

＜特記事項＞

年2回、各学校での特別の教育課程（新教科 Globe）の取り組みについて紹介する「Globe News」を町広報と一緒に全戸回覧、かつ東川町アプリにて配信し、情報提供を行っているほか、毎年、Globeに関する保護者・地域・東川町の小学校を卒業した大学生へのアンケート調査を行い、取り組みについて評価をいただいている。

また、年1回有識者等で組織される運営指導委員会を開催し、取り組みに関する意見や評価をいただいている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際性」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図ることができるよう「新教科 Globe」の実践に取り組んでいる。

成果としては、実践を通じ、児童生徒には「英語が将来自分の役に立つ」「他国の文化を知りたい」といった肯定的な意識が定着しており、多文化共生の素地が着実に育まれています。特に小学校では、世界の人々と関わることを好意的に捉える児童が増加している。保護者や地域に対しても「Globe News」の発行や運営指導委員会の開催、アンケート調査を通じて取り組みが浸透し、高い理解と評価を得ています。また、幼・小・中の各段階の言語活動を明確にした「LGC 一覧表（言語活動一覧）」を共有・活用したことで、発達段階に応じた滑らかで意図的な指導の接続（垂直的接続）が実現しました。さらに、夏季研修会や「グローブ会議」を通じて、町全体で教育課題を共有する教職員の同僚性が向上している。

一方で、創設から10年目を迎え、社会情勢や児童生徒の生活環境の変化に合わせ、カリキュラムの継続的なアップデートが必要である。具体的には、多文化共生の視点における「少数民族」や「LGBTQ+」の扱いの深化、及び教科横断的な学びのさらなる工夫が求められている。

異動等による教職員の入れ替わりがある中で、Globe 創設時の基本事項の周知と共通理解をいかに維持・継承していくかが重要な課題となっている。また、小規模校と主幹校との間で、授業内容や単元の流れをリアルタイムで共有し、指導の質を均一化するための体制整備が必要である。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

英検 ESG（小学校）で 9 割の児童が 90 点以上を取得し、英検 IBA（中学校）でも 3 年生が英検 3 級レベルに達するなど、英語の理解度と学習への興味・関心は極めて高い水準を維持している。

課題としては、小学校高学年における読み書きへの苦手意識の払拭や、中学校における「自分の考えを英語で書く」力の育成に向けた、個に応じた支援と指導の工夫が引き続き課題となっている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

①カリキュラムの持続的な改善と基盤整備

- ・Globe 創設当初の基本的事項の再確認と全教職員への周知を徹底し、持続可能な推進体制を構築する。
- ・小規模校における複式カリキュラムの全面実施を推進するとともに、ICT を活用して主幹校との授業実践の差異を解消する工夫を継続する。
- ・「LGC 一覧表」に基づき、校種間の接続をさらに円滑にするための指導案・教材データの整理・共有を進める。

②推進・支援体制の強化（コーディネート機能の充実）

- ・小規模校と主幹校の連携を深めるため、コーディネート機能の強化を図り、ALT への伝達や授業内容の調整を円滑にする。
- ・「Globe 夏季研修会」等の合同研修を継続し、教職員と JETs（ALT、CIR、SEA）と地域のゲストティーチャーが直接交流する機会を確保することで、国際教育への意識向上と組織的な協力体制を維持する。

③教科等横断的な学びと地域資源の活用

- ・他教科・領域との横断的な授業を推進し、地域理解と多文化共生をリンクさせた深い学びを実現する。
- ・町立日本語学校、福祉専門学校、地域人材「東川プロフェッショナル」等の多様な教育資源を、ゲストティーチャーや交流活動として積極的に活用し、社会的な課題解決能力を育成する。

④学校間・異校種間交流の質の向上

- ・同学年同士の合同授業や、幼・小・中・高・日本語学校による多様な交流をさらに促進し、中 1 ギャップの解消や、多様性を尊重する態度の育成を図る。